

2025

7.9 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

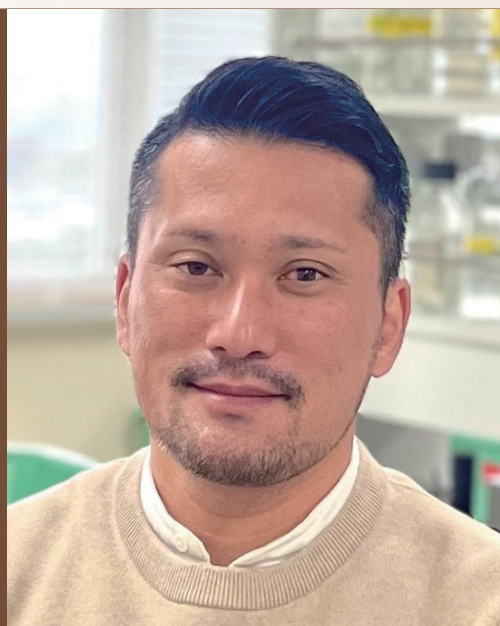
オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_M9FUzFcDQFWYq3SaYRqHCg

【技術支援】九州大学 Q-AOS

ピロリ菌と歩む世界の尾根

3 すべての人に
健康と福祉を10 人や国の不平等
をなくそう17 パートナシップで
目標を達成しよう

Key Words

ヘリコバクター・ピロリ

ブータン

感染症対策

細菌ゲノム解析

ユニバーサルヘルスカバレッジ

松本 昂 助教

大分大学医学部 環境・予防医学講座

大分県別府市出身。2011年、大分大学大学院医学系研究科微生物学講座において博士（医学）の学位を取得。同年、同講座の助教に着任し、狂犬病ウイルスに対するモノクローナル抗体の樹立および性状解析、ならびにアジア地域における狂犬病および小児ウイルス性下痢症に関する疫学研究に従事しました。2015年より大分大学医学部環境・予防医学講座の助教として、ヘリコバクター・ピロリのゲノム疫学を中心とした国際共同研究に取り組んでいます。2025年4月からは、同大学グローバル感染症研究センター・ゲノムワイド感染症研究部門を兼務。

現在、主に以下の国際共同研究プロジェクトに参加しています：

1. JICA-AMED 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS) 「ピロリ菌感染症関連死撲滅に向けた中核拠点形成事業」
2. JSPS 研究拠点形成事業「アフリカにおけるピロリ菌およびマイクロバイオータ研究拠点形成」
3. AMED 先端国際共同研究推進プログラム (ASPIRE-B) 「発癌病原体ヘリコバクター・ピロリに対する免疫応答の理解と免疫療法への応用」

ピロリ菌は、世界人口の約半数が感染していると推定されています。この菌は、胃酸が産生される過酷な胃の環境でも生存し、萎縮性胃炎や十二指腸潰瘍、さらに胃癌など深刻な疾患を引き起こします。しかし、実際には無症状もしくは軽症のまま生涯を終える感染者も多く、胃癌を発症するのは数%に過ぎません。

本セミナーでは、胃癌発症に関わる因子、アジア地域で胃癌患者が多い理由、感染による胃内の環境変化、人類とピロリ菌の歴史といった幅広い疑問に関して、ピロリ菌のゲノム解析から明らかになった最新の知見をお話しします。さらに、ブータンでのピロリ菌感染症や胃癌に対する我々の取り組みについてもご紹介します。